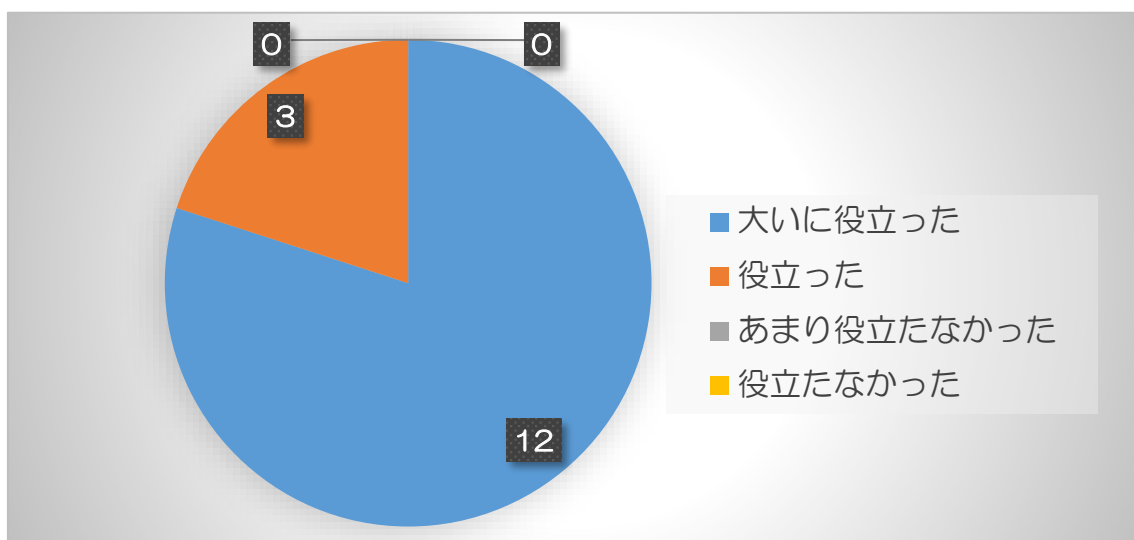


ハラスメント防止議員研修会受講後アンケート結果

令和8年10月5日実施

本日の研修は、議員活動におけるハラスメントの理解に役立ちましたか？

大いに役立った	12
役立った	3
あまり役立たなかった	0
役立たなかった	0



研修の内容で、最も印象に残ったことや新たな気づきは何ですか？

- ・ 自分の意識と相手の気持ちには隔たりが大きいこと。
- ・ ハラスメント条例では、被害者の人権が守られていないことを感じた。
- ・ 同じ事象でも、人によって何がハラスメントに当たるのか、どう対策すべきかの捉え方が異なることに気づいた。だからこそ、日頃から何がハラスメントになり得るのかを意識・認識し、議員同士が互いに声を掛け合い、注意喚起していくことが大切だと感じた。
- ・ パワーハラスメントの定義で、業務上の必要性、相当性の判断が難しい。
- ・ 大声を出す程度の事でもアウト、体に触れる事ももちろんアウトとハラスメントは厳しいと再認識した。ハラスメント認定されても議員の場合は社会的制裁を受けるので、議員を辞める、辞めないは有権者の判断という考え方もできるということ。モラハラについては相手の感じ方次第ということで難しいと思った。
- ・ 然るべき配慮が必要。結果論だけでは無い。相当性。住民としての判断。議員の認識の違い。(テーブルディスカッションより)
- ・ やはり議員としての立場は、職員から見ると優位性を持っているので、職員に対しての言葉遣いや態度は、自分の節度をしっかり守って、相手に威圧感を与えないことがとても大切であるということを改めて感じた。
- ・ 私達は、住民の代表で倫理的意識を住民感覚に合わせて、自覚することが必要であることを学べた。議員として言わなければならないことは、言っても配慮は必要であること。そして、自分の今までの対応などはどうだったのかの確認もできた。そして、身体的接触は、アウト。セクハラに関しては、おおよそ不快に感じる、不快に感じるだろうでもセクハラ認定になる事も、パワハラとは少し違うのだなと感じた。
- ・ やはり研修内容は、今回の事案の被害者感情を全く無視な感じがしました。とても悲しいです。
- ・ 具体的な説明は前回に比較して良かった。
- ・ 加西市議会のハラスメント防止条例の中では、相手を不快にさせたら、ハラスメントになること。社会通年上はどうなのかの判断。
- ・ 議員は市民の代表であり、言動に当たっては市民感覚での判断、社会通念上どうであるかの判断が大切であること。
- ・ 市民感覚。
- ・ やはり、1つのことだけでも議員によって考えが違うのを感じました。
- ・ 議員としての心得を含めてしっかりと学ぶことができた。

「これくらいは許される」という認識のズレについて、ご自身の活動を振り返り、今後特に気を付けていこうと思ったことは何ですか？

- ・ 何気ない発言が相手には非常に重要な問題となること。
- ・ ハラスメント行為については、常日頃から意識し続けることが大事である。
- ・ 普段、何気ないコミュニケーションの中で家族のことなどを話す機会があるが、自分にとっては何気ない話題でも、相手にとってはセクハラと受け取られる可能性があることを意識したい。また、時間外の連絡についても、相手の負担にならないよう、緊急性や必要性を考えて連絡することを心掛ける。
- ・ 時間外の電話や対応を出来るだけしないようにする。
- ・ 感情をコントロールし、慎重な態度、言葉づかいをするよう気をつけたい。
- ・ 自分の価値観だけではなく、住民としての判断をしよう。相手のことを考えた配慮をしよう。
- ・ 若い職員の方と話をするときに、どうしても言葉が軽くなる傾向がある。そんな時相手は軽く見られているのではないかと言う思いを持たれることがあると考える。だから、年齢とか性別とかに関係なく 誰とでも真剣に向き合って話をするようにしていきたい。
- ・ 一般質問のやり取りの中で必要だと思う情報が欲しい場合は、後でもいいのと言って来たけど、欲しい理由については、必要な理由を伝えるなどしておく議員方の圧と感がないんだなと思った。
- ・ 自分自身は、発言の時にもう少し慎重に言葉を選んで喋ろうと思います。やはり汚いことを使ったりしないように細心の注意を払います。
- ・ 議員との関係は特に注意する必要を感じた。
- ・ 議員個人個人の責任において、しっかりとした認識をして言動すること。
- ・ 絶えず自分自身の言動を振り返り、正すべきところがあれば正していくようにする。
- ・ 自分の行動を振り返ることが大切。
- ・ ハラスメントを見たときには注意すること、それを心がけていきたいと思います。
- ・ 絶えず自己点検、自己管理をして自覚的認識に気付いた。

議員と職員との関係性や、議員同士の関係性において、ハラスメント防止のためにご自身が実践すべきことは何だと思いますか？

- ・ いつ何時であっても、相手を尊重する姿勢を崩さないこと。
- ・ 議員から職員や議員から議員へのハラスメント行為を確認したり、ハラスメントにあたるような言動を確認すれば、直ちにその場で注意することが必要だと考える。見て見ぬふりはダメ。
- ・ 相手の立場や受け止め方を意識し、日頃の何気ない言動や連絡が負担になっていないかを考えることを大切にしたい。また、議員同士が互いに注意喚起し合える関係づくりを心掛けたい。
- ・ 日頃から何でも言える、指摘し合える関係をつくっていくこと。
- ・ 自分と意見、考え方が違ってても敵対感情を持たず、冷静に対応すること。
- ・ 更なる勉強。ハラスメントかなと気付いたら、早目に注意を促す。
- ・ 議員同士の場合、なぜこんな考え方をされるのか、なぜ他人に対して、そこまで偉そうにされるのか、腹が立つことがあります。考え方が違う人でも、相手の立場になると、そうせざるを得ないのかもしれないと、一度立ち止まって、相手の立場を考えることが大切です。相手のペースに巻き込まれて、自分自身が腹を立てて言葉遣いが悪くなったり、態度が悪くなったりすると、ハラスメントをするかもしれないので、やはり相手のことをしっかりと考え お互いに認め合う人間性をもっと高めないといけないと思っています。
- ・ 適度な距離感と、へりくだる必要性はないけれど、相手に不快な思いをさせないようにする事と、傾聴し、まず何か指摘する前に必要な情報を聞いてから、(教えてもらうなど)、意見を言うようにする。もちろん、相手の職員の事を市民だと思い接する事も大事。
- ・ やはり正しい言葉遣い、汚い言葉は使わないことに対して注意します。
- ・ 可能な限りポケットから手を出さない。意思疎通が取れてない人には最低限の会話を留める。
- ・ 常に、職員と議員、議員と議員は、お互いを尊重し、適度な距離感を保ちお互いに市や市民のために実践すること。
- ・ 絶えず相手はどのように受け止めるだろうかと想像力を発揮して考え、行動に移す。
- ・ 相手を尊重すること。
- ・ 常に注意をして行動するしかないと思います。
- ・ 発言、行動には留意し議員としての自覚をもって対応したい。

議会全体からハラスメントを無くしていく、あるいは発生させないためには、どのような取り組みが必要だと思われますか？

- ・ まずは自分自身の意識改革は当然ですが、見聞きした際、すぐに注意、声掛けができる関係づくり。
- ・ 以前、議員全員へハラスメント条例のアンケートをとった結果、答えの間違いや条例を理解をされていない議員が多くあったように思う。ハラスメントを発生させないためにも、今一度条例の理解を深めてもらうことが必要ではないか。
- ・ ハラスメント防止条例を定期的に点検・見直すとともに、相談から審査までの手続きについても、より適切で実効性のある仕組みに見直していくことが必要である。
- ・ 研修によって、何がよくないのか、どうすべきかを身につけていく。
- ・ 問題が発生する度にみんなで対策を考え、また普段から研修等で意識を高める
- ・ 今回と同様に、更にいろんなケースを勉強し議論する。(議員同士で意見を交わして、認識のズレに気付く。)※その他のハラスメントに関する研修。(グレーゾーン)
※被害者の立場を想定した研修。
- ・ 議会全体からハラスメントをなくしていくのは本当に難しいと感じています。それは個人の意識改革がとても難いからです。やはり、今回のような研修を続けていくしかないと考えます。しかし、ハラスメントをやる傾向性が強い方には研修頻度を高めたり、もっと長期研修に行ってもらいたいと思います。
- ・ しっかりと膿出しをしておかなければならない。おかしいと思う事は、しっかりと議会で話し合うべき。
- ・ 議会のすべての話し合いについては、正直に誠実に正しく話し合うようにしたいと思います。嘘はだめです。まともに正直に正しく話し合いを持つように心がけたいと思います。
- ・ 自己責任の徹底と条例に責任の取り方を検討する必要があるのでは。
- ・ ハラスメントに対して立ち止まって、お互いに制止のための言動をしていくこと。
- ・ この度策定した決議書を座右に置き、自分自身の意識を高める。決してハラスメントをしない。周りでハラスメントの発生を認知した時は、行為者に対してその場でただし、議会全体の意識を高める。
- ・ 相手がどう受け取るか考えて行動する。
- ・ ハラスメント防止条例の改訂も必要だと思います。また一人ひとりの意識を 1 段階向上させる必要があると思います。
- ・ 各議員の認識を深め互いに点検する関係づくりの構築。

今後、どのようなテーマや形式でハラスメント防止に関する研修を行えば効果的だと思われますか？

- ・ 被害者側になって対応する研修。
- ・ ハラスメントを行った議員、なぜその行為や言動などがハラスメントにあたるのかということが理解できない、認識できていない議員をピンポイントで対象にする方が効果的である。
- ・ 現在の手続きやハラスメント防止条例について、他自治体の事例や実際の事例を学び、それを踏まえて議員同士で話し合える機会があると効果的だと思う。最終的には、議会運営委員会などで議論し、議会として決めていくことが必要だと思う。
- ・ ハラスメント事案に対する対応について(調査、審査、対処の仕方)。
- ・ 今回のように実例や判例を材料にして考えるような研修。
- ・ その他のハラスメントに関する研修。被害者の立場を想定した研修。
- ・ 実際に寸劇でもいいので、今日の職員アンケートにある、食べ物を無理矢理食べさせることや、夜中に電話をして、威圧的な言葉を使う場面を実際に、議員同士で体験してもらって、ハラスメントは本当に怖い。こんなことをしてはいけないという思いをもっと深めてほしいです。
- ・ 議員同士も考えておかなければ、いけないと思う。女性や若者が出て来たときの為にも。そうする事で、次の議員になる人の被害もなくせる。職員との関係に関しては、そもそも人との付き合い方の研修をする事も、一つ意識改革のひとつになるかもしれないと思います。
- ・ あまり効果がないと思います。理由は今回は被害者感情を無視してやりたい放題やったために、事案が起きた。対策としては、やはり罪を憎んで人を憎まずと言うふうな事案ではないと思います。罪には内容に応じて罰せられる事案がまちまちです。そのため簡単に今回の事案を済ましたら全く被害者感情を無視してると思います。どこに正義があるんでしょう。今回の事案はそういう簡単な問題ではありません。もっともっと加害者は考えて自分自身のしたことについてよく考え反省し、再発防止に努めるようにしなければならないと思います。今回は加害者がすべて問題です。正義はどこにあるのか。
- ・ 研修は不要。
- ・ ハラスメント防止条例の改善に対しての研修。
- ・ 人権のテーマもいいのでは。グループでの討論、発表の形式がいい。
- ・ 討論形式がいい。
- ・ (回答なし)
- ・ 議会内、議員内での点検、確認。埋もれている問題も出し合って解決すべきと思う。